

## 67. <加齢>

毎年人間ドックを受けています。3年前の人間ドックの際に、医者から「これはカレーによるものですから、気にしなくていいですよ」と言われました。カレー???その当時は単身赴任中だったので、確かにカレーを作ることは多かったですのですが、なぜカレーが問題なのか?しばしの葛藤の後、思い当たったのが「加齢」でした。

若いつもりでも、年々年をとり、体も老朽化していきます。私たちの「下水道施設」についても同じことで、建設当初はきちんと機能していた施設も、加齢により機能劣化が見られるようになります。私達が人間ドックを受診するように、下水道施設も定期検査が必要です。定期的に点検を行い、健全度を判断し、健全度予測に基づき補修を計画し、さらには実施予算を検討する、状況によっては再構築を検討する・・・、これが「アセットマネジメント」です。人間ドックを受診し、悪いところがあれば治療方針を決め、手術も検討し、その際は入院費を見積もる、場合によっては人生設計も再検討・・・、アセットマネジメントとよく似ていますね。

アセットマネジメントとともに、下水道経営を支えるツールとして企業会計があります。人間ドックでは、検査結果が出てきますが、これは貸借対照表にたとえられます。資産はどうなっているか、負債はどうか、などですね。ドックの結果では、体重(資産?)は何キロ、体脂肪(これは負債)はどうか、というところです。まずは、資産台帳の整備を始めましょう。また、1年間の変化を示すものが、損益計算書になります。体重、血圧などの経年変化を知ることが大切ですよね。

このような基本的な数字を押さえた上でアセットマネジメントを導入し、いつまでも若々しい下水道施設を維持していきましょう。

< 藤本 裕之 >

※ J S 技術開発情報メール No. 74 号(2008/1/9)に掲載